

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ココロ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アットホームな雰囲気でごどもが通所を「楽しみ」にしている。	個々の好きな物、好きな事をリサーチしてこどもの「やる気」に繋がる活動を取り入れている。個々のその日の状態を把握し活動量の調整を行っている。個々が安心して過ごせる環境づくりを心がけている。	さらに「体験」の機会を増やし好きな事、出来ることが増え「やる気」に繋がる活動の選択肢を広げたい。
2	それぞれの特性に合わせた支援プログラム	アセスメントから「強み」を見つけ個々に合わせた取り組みが出来るよう、全職員で支援計画の検討を行っている。支援プログラムが固定しないよう必要に応じてプログラム内容の見直しを行っている。	社内研修の内容を見直し職員のスキルアップを図る。社外研修に参加して専門知識を高める。
3	小学1年生から高校3年生まで利用しているので異年齢の交流ができる。先輩後輩を意識することでお互いの成長に繋がっている。	歩行トレーニングで人のペースに合わせるトレーニングをしている。理解度に合わせてSST(生活・気持ち)のグループワークを行っている。	高等部卒業後の進路先との交流と連携 自立へ向けて作業体験や余暇活動の提案

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の人や子供との交流の機会が少ない。	公共施設や屋内外施設を積極的に利用しているので地域の人や子供との接点はあるが交流の活動は行っていない。お子さんの特性上、保護者が必ずしも交流の機会を求めているので積極的に働きかけをしていなかった。	保護者の意向や意見を確認して立案につなげる。まずは地域で仕事をしている保護者に協力を依頼する。
2	玄関回りがバリアフリー化されていない。個別の活動スペースを複数確保するのが難しい。	一般住宅をリフォームした建物のためスペースにゆとりがない。	玄関の段差は出来るだけ早く解消したいので方法を検討する。個別スペースは時間で分けるなどできるかシュミレーションしてみる。
3	きょうだいの支援について周知されていない。	家族交流ができる行事を企画し祖父母やきょうだいにも参加していただいているが、きょうだい同士だけが交流できる行事は行っていない。	どのようなきょうだい支援のニーズがあるか保護者にアンケートを行い立案につなげたい。